

# 松坂わかこさん

(女優・歌人・ホウシングレフリー)

## 二つのいまと二つの過去

誰でもそうだが、人にはいろいろな顔がある。仕事をしている顔、遊ぶときの顔、趣味に没頭する顔。今回の松坂さんのそれはけっこうすこい。まるで違う世界を三つ。三つの世界を持つにいたった経緯を聞いてみた。

### 女優として舞台を踏む楽しさを追い求めて

——まずは女優を目指した理由から教えてください。  
以前、劇作家の福田善之さんに「なぜ、女優を志したの？」と聞かれたことがあります。そのときに「小学生の頃から目立ちたがり屋だったし、血が騒いだということでしょうか」と返したら、「いや、絶対にもっと具体的な何かがある」と言われたのです。よくよく考えてみると、中学校の国語の授業の朗読では必ず褒められていたりして、自分の表現が認められるとい

う積み重ねが、女優を志す礎となってきたのかなと思っ  
ています。最近会った中学校の同級生によると、どうも  
も当時から「女優になる」と公言していたようです。ただ、  
高校三年になった年に、日本初の女性警察官の白バイ部隊が  
誕生、そこで白バイ隊員と女優と迷ったのですが、最終的に  
俳優への道を選びました。  
——それで桐朋学園芸術短期大学演劇科へ入るわけですね。

受験の際は演劇に特化した塾などに通うわけではなく、  
一般的な勉強をしていました。ただ、たまたま叔父の親友が  
桐朋学園の演劇科を出て俳優をされていた

のです。その方を紹介してもらい、演技指導を受けた  
りして無事に合格することができました。

——学校を出てすぐ、お金を得られる仕事につながった  
のでしょうか。

卒業後、岸田今日子さんや渡辺謙さんが所属されて  
いた演劇集団「円」(\*)の研究生になりました。二年目からは、  
円が売り出そうとする俳優には、仕事を回してくれます。幸い、  
いくつかの仕事ももらえました。円では普段学ぶのは舞台の  
演劇ですが、お金になるものはテレビなど映像の仕事が主  
でしたね。

円には毎年、役者の査定があるのです。実力不足だった  
ので、残念ながら三年目以降は残ることができず……シ  
ョックでしたね。「あなたはダメです」と言われたわけ  
ですから。四月以降、どうしようかと思っ  
ていたところ、ほかの劇団への誘いや大物女優の付き人の  
話もあったのですが、どれもピンとこなくてそんな中、ある  
オーディションを紹介してもらい、それに受かったの  
で、フリーの女優として舞台に立つことから始めまし  
た。

——それ以降はフリーランスの女優として活動を？  
夏まではその公演があり、秋からは知人が立ち上げ

た劇団で客演することになっており、冬には別の劇団  
で芝居することになっていたので。ところが冬からの公演が  
なくなり困っていたところ、前述の叔父の親友が所属して  
いたアクトーズ・カンパニーに入れてもらうことができました。  
当時はテレビなど映像の仕事もやっ  
ていこうと思っ  
ていたのですが、  
現実はそんなに  
甘くなかった。  
仕事がなかなか  
なくて、ここでも  
厳しい現実をみ  
せられることな  
りました。そんな  
知り合いの女優  
さんから「劇団  
レクラム舎で客  
演する予定だっ  
ただけ、予定が  
合わなくなっ  
てしまったので、  
やっ  
てもらえないか？」と打診された  
のです。ち  
ょうど何もない  
時期だったので  
「やります！」と  
二つ返事でレク  
ラム舎に関わる  
ことになりました。  
二十五歳で初め  
ての舞台を踏ま  
せていただいた  
からは、ほとんど  
すべての公演に  
出させてもらっ  
ています。

——紆余曲折ありながらも演技を続けてきた、そのモチ  
ベーションとは。

若い頃は自分の演技はいいと信じていたし、まだどこか  
で「いつかブレイクできる」と思っていたのだと思  
います。けれど、年月がすぎ、だんだんそうでもな  
いんだということがわかってきた。でも、もうそのと

\*1975年、芥川比呂志、中村伸郎らが中心となって設立。